

公益社団法人 日本地すべり学会

中部支部ニュース

第
14
号

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1
信州大学工学部
社会開発工学科内

巻 頭 言

公益社団法人日本地すべり学会会員各位をはじめ、中部支部特別協賛法人、支部協賛法人の皆様、教育機関、関係行政機関の皆様には平成24年度も中部支部の企画や行事運営に関して惜しまぬご指導とご協力を承ることができました。中部支部ニュースも第14号を編集お届けすることができました。支部長としてここに改めて深く感謝いたします。

中部地方の土砂災害をふりかえりますと、平成24年7月3日 静岡県牧之原市静波内山地区のがけ崩れ災害、9月17日—19日の台風16号による岐阜県大垣市上石津地区における土石流災害に伴う災害関連緊急事業の実施など保全人家や公共施設の被災により地域社会へ甚大な被害が生じました。また国土交通省によれば7月12—14日の熊本県、福岡県を中心とした「九州北部豪雨災害」に伴い土砂災害発生件数268件（土石流140件、地すべり19件、がけ崩れ109件）もの同時多発的な土砂災害により死者不明者23人、河川の氾濫、公共施設への甚大な被災が報告されており、未だ我が国土が風水害により脆弱であることを改めて思い知らされました。こうした中で被災地での観測、調査等の迅速な対応や警戒避難体制の整備への助言、早期復旧に向けた対策工法の検討等、会員の皆様のご尽力に対し改めて感謝申し上げます。

さて中部支部は会員の皆様の積極的な参加により活発な活動が続いていることを心強く感じております。平成22年度は5月に開催した長野市での総会・講演会には一般参加も含め約131人が聴講、11月には愛知県豊田市堂ノ本地区の急傾斜地対策、瀬戸市萩御殿での治山対策の現地見学会に38人が参加、12月には長野市でのシンポジウム「地域ぐるみの危機管理」に77名が参加され活発な意見が交わされました。通年の活動を通して地域社会に活動を広く発信することができました。

平成25年は5月15日に総会、講演会。8月には島根県松江市で地すべり学会研究発表会全国大会。11月には現地見学会、平成26年1月にはシンポジウムを予定しております。

最後になりますが平成24年度末には「東北地方太平洋沖地震（M9）」の翌12日「長野県北部の地震」により長野県栄村で発生した急傾斜地崩壊、土石流などの被災に対する対策が完了し地域の安全安心が確保されました。一方でこの平成25年4月中旬より静岡県浜松市春野門島地すべり災害はマスコミに広く報道され、避難される方も多く、現地状況も未だ予断を許さない状況となっており、早期の地すべり対策が望まれています。

中部支部は土砂災害防止技術の研究や継承、防災啓発などを軸に、地域の皆様のニーズを捉え、地域社会へ貢献できる支部活動を継続したいと考えております。今後もさらなる技術向上を目指し、積極的な活動を行っていきたくと考えておりますので、引き続き会員皆様のご理解と御協力をお願い申し上げます。



支部長 土屋 智
(静岡大学教授)

平成 24 年度（公社）日本地すべり学会中部支部総会

次第

日 時 平成 24 年 5 月 7 日（月） 14：30～15：00
場 所 長野市 サンパルテ山王

- 1 開会
- 2 支部長挨拶
- 3 来賓挨拶
(開催県砂防課長挨拶)
- 4 議長選出
- 5 議 事
- 6 その他
- 7 閉会

- 第 1 号議案 平成 23 年度事業報告に関する件
- 第 2 号議案 平成 23 年度決算報告の承認に関する件
- 第 3 号議案 平成 24 年度事業計画の承認に関する件
- 第 4 号議案 平成 24 年度事業予算の承認に関する件
- 第 5 号議案 平成 24 年度役員改選・承認に関する件
- 第 6 号議案 (公社)日本地すべり学会支部内規に関する件

講演会 大規模地すべりを考える

時 間 15：00～17：00

場 所 長野市 サンパルテ山王

講 演 演題「稗田山地すべりについて」国土交通省松本砂防事務所所長 **判田 乾一 氏**
「台湾 九份二山・草嶺地すべり発生から現況」静岡大学教授 **土屋 智 氏**
「台湾小林村地すべり発生時の状況」(社)全国治水砂防協会常任参与 **原 義文 氏**
「台湾小林村の地すべりを見学して」国土防災技術(株)静岡支店総括課長 **高島 誠 氏**

意見交換会

時 間 17：30～19：30

場 所 長野市 サンパルテ山王



土屋支部長の開会挨拶



田中建設部砂防課長の挨拶



判田講師の講演



原講師の講演

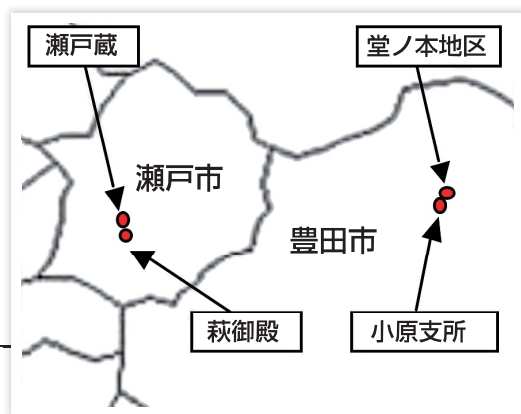


会場の聴衆

平成24年度現地見学会の開催

(公社)日本地すべり学会中部支部幹事 児玉浩

- 日時／平成24年11月15日(木) 12:00～19:30
- 場所／愛知県豊田市「堂ノ本地区」
瀬戸市「萩御殿」「瀬戸蔵」など
- 案内者／佐藤威臣(国土防災技術(株)名古屋支店)
杉崎友是(日本工営(株)名古屋支店)
小野和行(日本総合建設(株)松本支店)
- 参加者／38名
- 行程／11月15日(木)



<p>12:15 名古屋駅発</p> <p>13:30 豊田市「堂ノ本地区」 特定利用斜面施設の見学</p> <p>14:30 豊田市小原支所 討論会</p> <p>16:00 瀬戸文化センター はげ山対策の石堰堤見学 瀬戸市「萩御殿」</p>	<p>16:45 瀬戸市「瀬戸蔵」 ミュージアム見学：陶土、瀬戸の歴史</p> <p>17:30 瀬戸尾張駅付近にて意見交換会</p> <p>19:30 閉会</p>
--	---

◆豊田市「堂ノ本地区」特定利用斜面施設の見学

「堂ノ本地区」は急傾斜地崩壊危険区域に指定された高い山であったが、特定利用斜面保全事業により、のり面対策(切土+吹付法砕工+一部アンカー工)を実施し、造成した山頂部の平坦地は小原村により公園整備を進めている地区である。頂部の公園は市民の憩いの場となっており、公園施設・休憩所などが整備されている。現地では愛知県豊田加茂建設事務所による急傾斜地斜面对策事業の説明を受け、頂部では豊田市小原支所から説明を受けた。対策工事が終わった現在でも1～2回/月の目視点検を実施し、変状が認められると周辺住民から通報される体制となっており、急傾斜地対策事業と住民生活、住民防災意識が融合した現場であった。



堂ノ本地区 急傾斜地対策事業

◆豊田小原支所 討論会

討論会は中部支部林副支部長の挨拶から始まり、愛知県砂防課から「愛知県の砂防について」の話題提供をしていただき、愛知県豊田加茂建設事務所による「堂ノ本地区特定利用斜面事業について」の討論をしていただいた。昭和47年7月の豪雨災害についてもご教授いただき、当時の被災状況、復旧事業について理解を深めた。



堂ノ本地区 小原村 公園事業

◆瀬戸文化センター はげ山対策の石堰堤見学 瀬戸市「萩御殿」

「萩御殿」が位置する山域は、森林からの過度の伐採、浸食されやすい地質、盛んな窯業に伴う陶土の採取などによりハゲ山化した箇所である。ハゲ山の復旧は天明2年（1782）以降実施、植生もだいぶ回復してきたが、第二次世界大戦時に伐採・開墾等により再びハゲ山に戻った。その後昭和22年（1947）にハゲ山復旧事業が開始され、昭和44年（1969）頃にはハゲ山復旧も終了し、緑の森林がよみがえった。現地では愛知県林務課、尾張農林水産事務所からハゲ山復旧事業の説明を受け、現場に残っている明治33年頃の治山事業についてご教授いただいた。その後、石堰堤や土堰堤、積苗工など現地に残る山腹工を見学し、山腹工により土砂流出が抑制され植生が回復した状況を確認した。山沿いの平坦部は公園として開放され、山の中の小道は散歩道として地域住民の憩いの場となっている。



萩御殿 ハゲ山対策事業 石堰堤

◆瀬戸市「瀬戸蔵」ミュージアム見学：陶土、瀬戸の歴史

瀬戸蔵はやきものの発祥の地、瀬戸市の歴史・瀬戸焼の理解を深める博物館であった。博物館には昭和30、40年代の瀬戸の街並み、瀬戸焼の歴史、瀬戸焼の生産工程等が展示され、一巡りすれば瀬戸の歴史・瀬戸焼を理解できるコースとなっており、興味深く見学させていただいた。

〈感想〉

今回の現地検討会では、砂防・治山事業とその街の歴史・住民との関わりについて学ぶことができた。今後、住民との連携による砂防・治山事業を行う上での良い経験になったと感じた。

当視察には、愛知県、愛知県砂防課、愛知県豊田加茂建設事務所、愛知県林務課、愛知県尾張農林水産事務所、豊田市小原支所の皆さんにお忙しい中、案内資料の作成や工程の調整、現地の案内をしていただき、感謝の意を表します。

（文責：（公社）日本地すべり学会中部支部幹事 児玉浩）



堂ノ本地区の事業概要パンフレット



小原支所での討論会のようす

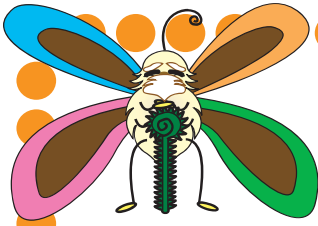


萩御殿の事業概要パンフレット

講座「土砂災害の伝承—愛知県瀬戸市石田町」

土砂災害の史実を伝える各地のおはなしを紹介します。

島田千亜紀*・北澤秋司**



スーベ・ヤムじいちゃんのおはなしシリーズ ④

「首なし地藏」

(愛知県瀬戸市石田町)

瀬戸はな、平安時代の頃から陶器がつけられてな、質の良い陶土と薪木の宝庫である森林を
 活用して発展してきたんじや。けれども、それらの資源を採りすぎてな、森林がなくなり、
 化してしまった時期もあったんじや。禿山になるとな、降った雨が森の土や木々に蓄えられず
 一気に川に流れ込んでしまうもんじやから洪水が起こりやすくなるし、落ち葉や木の根で守られてい
 ない山肌は崩れやすくなるし、大雨が降るたびに人々は被害を受けてきたんじや。

江戸時代になって天和元年(1681)の頃、大雨が降り続いたにもかかわらず川の水が増えなかつ
 たもんだから、「太したこともなくてよかったな」と山口村の人たちは安心しておったんじや。
 ところがそのころ、矢田川(山口川)の上流で山が崩れておってな、土や砂が川をせき止めて
 天然のダムになっておったんじや。さらに雨が降り続き、天然ダムは突然切れてな、たまって
 た水が一気に流れ出してしまったんじや。下流にあった家や田んぼはな、ひとたまりもなく押し流
 されてしまい、石と砂の川原となって、多くの人も流されてしまったんじや。

雨もやみ、水が引いた後、村人たちが流されてしまった田んぼを見て回るとな、土砂の中に
 石の地藏さんが埋まっているのを見つけたんじや。みんなで掘りおこしてみると、なんと地藏さん
 には首がついておらんかったとさ。「あの恐ろしい大水で、流されてこられたお地藏さんだで、
 この辺りへおまつりしようかな」とみんなで相談してな、見つけた近くの土地におまつりしたん
 じやと。その後、お地藏さんに病気が早く治るとお祈りをするとな、よく治るといいうわさ
 が広まってな、たくさんの方がおまいりをするようになったんじやと。

いつの頃かのう、頭の無いお地藏さんを哀れに思った人がな、丸い石を頭のかわりにのせてあ
 げたんじや。今でもこのお地藏さんな、「首なし地藏」と呼ばれているということじや。

さてさて、首なし地藏が流れ着いてから86年が
 過ぎた頃じやが、再び大雨が降ってな、今度は山
 口村の上流にある赤津村の万徳寺前で山崩れが起
 こってな、川がせき止められたために赤津村は池
 になってしまったんじや。その池が一気に激流とな
 って矢田川に流れ込んだもんだから、山口村はま
 たも被害を被ってな、たくさんの人や家が流され
 てしまったということさ。

大雨が降っているのに川の水が増えない時は、
 上流で山が崩れて天然ダムができておるかもしれ
 ん、すぐに川から離れて高い所へ逃げるんじやよ。

① 首なし地藏 (瀬戸市石田町)

首なし地藏には、手作りの服が着せら
 れ、たくさんの方の千羽鶴などが供えられて
 おり、人々の信仰の厚さが伺えます。昔
 から行われている八月のお祭りでは、子
 ども達にお菓子が配られ、過去に起こつ
 た災害の伝承が引き継がれています。

*: Office アシスト・ゼロ **: 信州大学名誉教授

■ 万徳寺前の山崩れによる天然ダム決壊の記録「明和四年（1767）七月十～十二日」

② 万徳寺前の崩壊跡（瀬戸市門前町付近）

■ 赤津川の下流を望む



万徳寺前を流れる赤津川の対岸には、崩壊跡にできた流山と思われる地形がみられます。（写真上）また、天然ダムにより湛水した

■ 赤津川の上流を望む



と伝えられる辺りは、明治二十二年測量の地形図を見ると湿地であり、現在では畑となっています。（写真下）

③ 如意輪観音（瀬戸市赤津町大松）



この時の大洪水で亡くなってしまうた六名（成人男女各一名、童子男女各一名）の名が刻まれ、村の人々が冥福をお祈りしたということです。

■ 瀬戸には、土砂災害にまつわる場所がたくさんあります。

おはなしMAP

⑥ 萩御殿（瀬戸市南公園）

かつて禿山の復旧工事が行われた際、萩の茶屋には大勢の人が訪れ、工事の見学をしました。明治四十三年には、皇太子殿下が訪れ行啓を記念し萩御殿と呼ばれるようになりました。

④ 性空石（瀬戸市 雲興寺）

明和四年の大洪水では、猿投山でも崩壊が起きました。巨岩がおびただしく川へと押し出され、雲興寺にある性空石も押し流されたということです。

⑤ 広久手18号窯跡内の地すべり（瀬戸市吉野町）

この地すべりは、窯の廃絶後に発生したとみられ、正平十六年（一三六一）の南海地震に伴う東海地震が、記録には残されていないが一三世紀中頃に発生したのであろう未知の東海地震が誘因となつて起きたと考えられています。（青木修ほか二〇〇一年）

※この背景地図等データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものである。

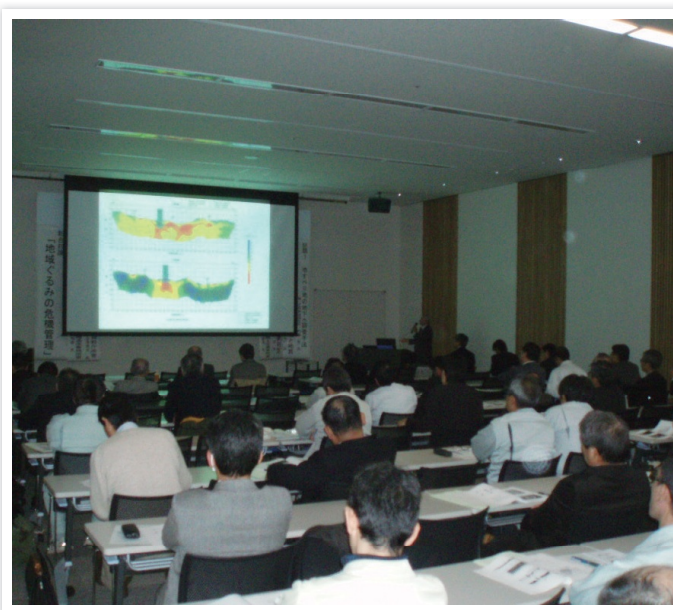
中部支部 シンポジウム

(公社) 日本地すべり学会中部支部幹事 山田泰弘

平成24年12月19日(水)に、長野市生涯学習センターにて中部支部シンポジウムが開催されました。シンポジウムは「地域ぐるみの危機管理」をテーマとして催され、地すべりと地下水対策、その効果と維持管理に着眼した6つの話題提供をもとに、地域ぐるみの3つのサブテーマ(「防災教育」、「防災環境整備」、「地域による防災管理」)について、活発な意見交換が行われました。当日は77名の方が参加され、主催側だけでなく、会場席側からも多数の、多様かつ貴重なご意見を頂戴することができました。ここに改めて感謝いたします。



土屋支部長あいさつ



シンポジウムの様子 (話題提供)



シンポジウムの様子 (話題提供)



シンポジウムの様子 (総合討論)

ンポジウムの概要

- 日 時／平成24年12月19日
14:00～17:30
- 場 所／長野市生涯学習センター (TO i GO)
- 主 催／(公社) 日本地すべり学会中部支部
- 共 催／長野県治水砂防協会
- 後 援／長野県砂防ボランティア協会

◇プログラム

14:00 開会挨拶 土屋支部長

◇地すべり状況をいかに伝えるか(話題提供)

- 14:10 話題1「地すべり地の地下水調査手法」
(株) 中部測地研究所 内藤 哲氏
- 14:30 話題2「地すべりに作用する水質特性と地質」
日本総合建設(株) 小野 和行氏
- 14:50 話題3「地すべり抑制工とその効果判定」
日本工営(株) 児玉 浩氏
- 15:10 話題4「地すべり地域での取り組み：国交省所管」
長野県砂防課 柳沢 豊茂氏
- 15:30 話題5「地すべり地域での取り組み：林野庁所管」
長野県森林づくり推進課 正条 直太氏
- 15:50 話題6「地すべり地域での取り組み：農林振興局所管」
長野県農地整備課 安田 和雄氏
- 16:10 休 憩

◇総合討論「地域ぐるみの危機管理」

- 16:20 総合討論司会 企画部 山田幹事、児玉幹事
} コメント：子供の教育と地域防災、地域の人々による防災管理、
- 17:30 観測値を伝える (Web表示、電光掲示板)、地すべり地の利用

◇技術交流会 (17:45～19:30) JAL シティホテル

平成24年度 日本地すべり学会中部支部シンポジウム

「地域ぐるみの危機管理」

日時
平成24年12月19日
14:00～17:30

場所
長野市生涯学習センター(TO i GO)
TEL:026-233-8080
<http://www.toigo.co.jp/access/>

プログラム

開 会 14:00～

話題提供 14:10～

総合討論 16:20～17:30

技術交流会 17:45～19:45

■JALシティホテル TEL026-255-1131



平成18年7月豪雨岡谷市小田井水川(提供 長野県)

◆シンポジウム聴取無料◆

—地すべり状況をいかに伝えるか—

①地すべり地の地下水調査手法/中部測地研究所 内藤 哲
②地すべりに作用する水質特性と地質/日本総合建設(株) 小野 和行
③地すべり抑制工とその効果判定/日本工営(株) 児玉 浩
④地すべり地域での取り組み:国交省所管/長野県砂防課 柳沢 豊茂
⑤地すべり地域での取り組み:林野庁所管/長野県森林づくり推進課 正条 直太
⑥地すべり地域での取り組み:農林振興局所管/長野県農地整備課 安田 和雄

総合討論 16:20～17:30

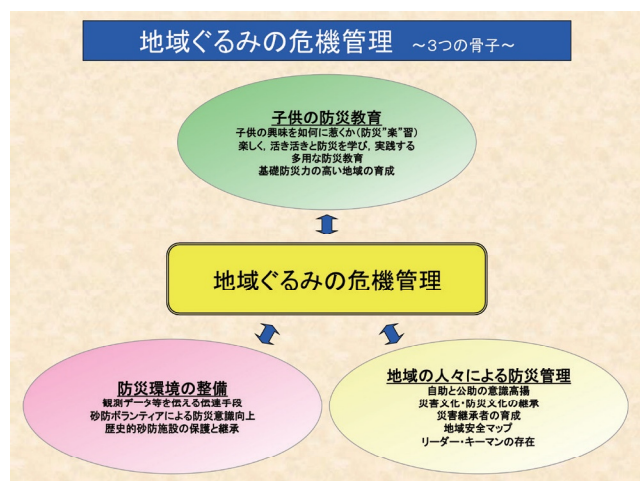
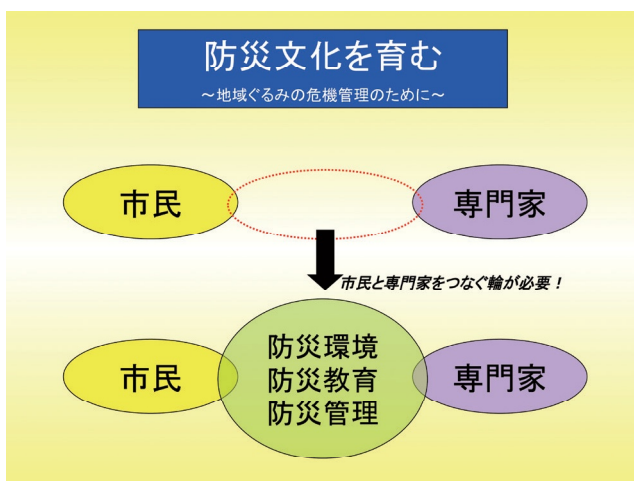
「地域ぐるみの危機管理」

子供の教育と地域防災、地域の人々による防災管理、
観測地を伝える (Web表示・電光掲示板)、地すべり地の利用

技術交流会 17:45～19:45

■JALシティホテル TEL026-255-1131

主催/公益社団法人 日本地すべり学会中部支部 共催/長野県治水砂防協会
後援/長野県砂防ボランティア協会



シンポジウムのテーマ「地域ぐるみの危機管理」を考える上で、「社会的なステークホルダー」と「具体的な取り組みテーマや方法」について山田幹事より冒頭話題提供があった。

NPO法人 長野県地すべり防止工事士の活動

内藤哲(中部測地研究所)

本会は、平成16年10月にNPO認証を受けてから8年を経過しました。小学校や高専、市町村や県から出前講演の要請を受けて、内容にふさわしい会員を派遣しています。設立後4年目ころから、県内には広く認識されるようになったようです。現在の会員は43名ですが、大多数がコンサル会社に所属するなど会員の活動への参加範囲が限られており、活動内容の拡充は難しいのが現状です。地すべり学会や地盤工学会、斜面防災技術協会などと共催イベントなどにも参画し、年間の収支は約120万円程度で経緯しています。今後は、より【こまめで優しい活動】を目指していく所存です。



地元小学校の地すべり現場での勉強会



地附山観測センターでの活動



地元小学校での水生生物の勉強会



地元小学校ビオトープ池でのモニタリング



ビオトープ池で羽化するクロスジギンヤンマ

中部地域での土砂防災教育、防災啓発の取りくみ

(公社)日本地すべり学会中部支部幹事 飯沼達夫

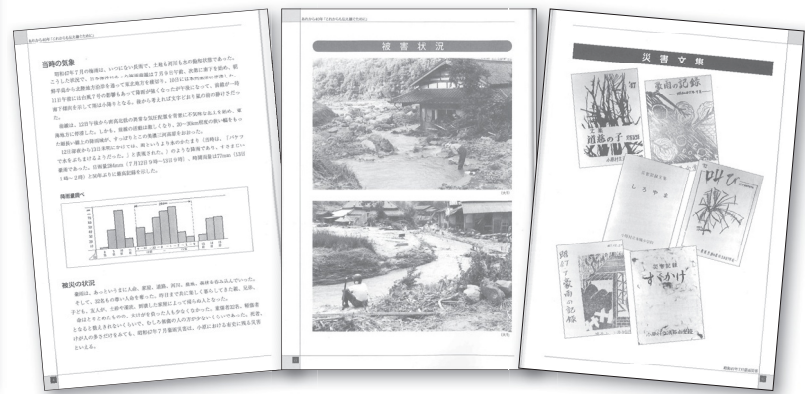
記念誌「あれから40年 これからも伝え継ぐために 昭和47年7月豪雨災害」

発行：豊田市 編集：豊田市社会部小原支所

平成24年11月中部支部現地見学会（豊田市堂ノ本地区）の際、ご案内いただきお世話になった愛知県小原支所の取りくみとして表題の記念誌を支部に寄贈いただきました。この冊子には、この地域で40年前の昭和47年7月12日～13日にかけて旧小原村を襲った豪雨による土砂災害の記録が詳細に記載されています。本稿ではこの冊子について紹介します。

発行はちょうど40年目の平成24年7月14日で、豊田市長、太田稔彦氏による災害概要の解説や防災施策の推進についての強い決意が述べられています。また32名もの犠牲者を出した被害記録全容の紹介、被災直後の貴重な災害記録写真、被災直後の復旧・復興の中で当時の子どもたちがまとめた災害文集が掲載されています。文集では子どもたちが感じとった土砂災害の悲惨さや、今の私たちが学ぶべき教訓が多く記載されています。愛知県をはじめとして中部地域で土砂災害防止に係る方、地域社会の方に広く読んでいただきたい冊子だと思います。問い合わせ先は以下のとおりです。

発行者：豊田市 編集：豊田市社会部小原支所 〒470-0592 豊田市小原町上平 44-1
 TEL：0565-65-2001 FAX：0565-65-3695 E-mail：obara-shisyo@city.toyota.aichi.jp
 (公社)日本地すべり学会中部支部



駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムへの参画

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムが位置する長野県駒ヶ根市の太田切川流域は、幾重に渡って土石流災害に襲われた地域であり、土石流災害の痕跡を多く残している。その一方、流域は昭和37年から直轄砂防事業として施設整備を進めてきており、地元や国が土砂災害に対して取り組んできた歴史を垣間見ることができます。周辺には光前寺や竹村家住宅など地域の歴史を学ぶことができる文化施設もあり、太田切川流域は、年間を通して観光客が多く訪れる観光スポットです。地すべり学会中部支部はこのような太田切川流域の特徴を生かして災害伝承・災害教育に役立てようとする駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムの設立趣旨に賛同し、サポート団体として支援しています。

<http://field-museum.kankou-komagane.com>

自然と人があひなみ 高空博物館

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

フィールドミュージアムへ行こう!

ガイドマップやガイドブックをごらんいただけます。

フィールドミュージアムのご紹介

利用案内

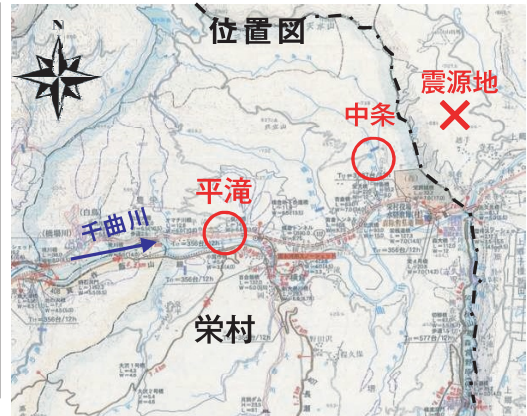
広報(その1) 長野県庁より

長野県 砂防課

H23.3.12 「長野県北部の地震」で被災した箇所の復旧工事が完了しました

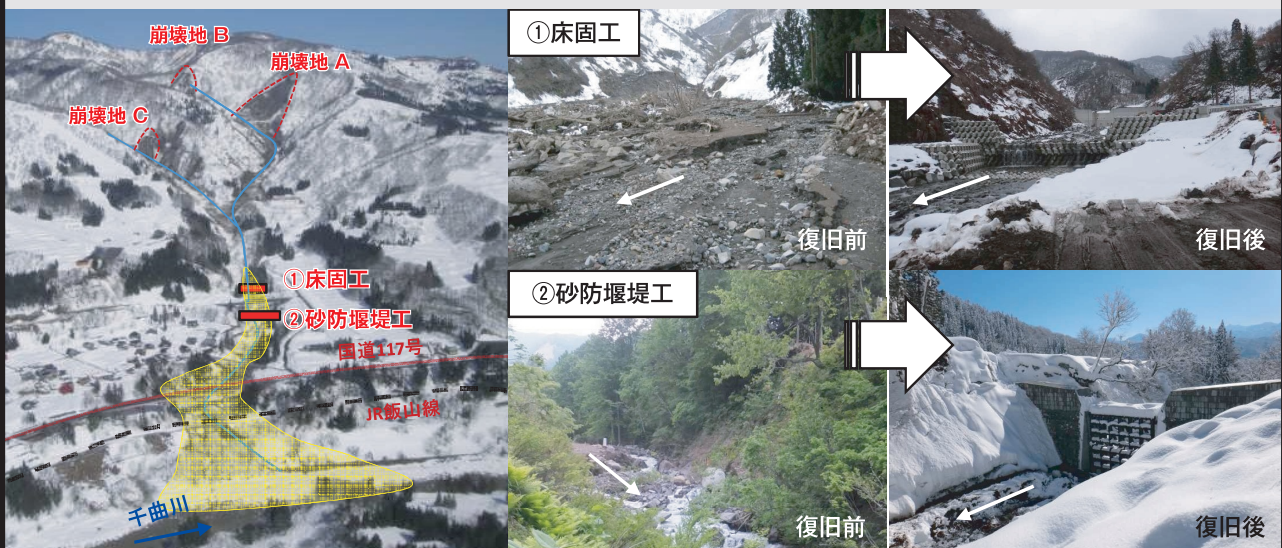
地震の概要

- (1) 発生日時 平成23年3月12日(土) 午前3時59分頃
- (2) 震源地 新潟県中越地方 震源の深さ約10km
- (3) 地震の規模 M6.7
- (4) 県内の震度 6強：栄村、5弱：野沢温泉村
4：飯山市、木島平村、中野市、飯綱町、
長野市豊野、信濃町
- (5) 人的被害 12名(栄村10、長野市1、野沢温泉村1)
全員軽傷
- (6) 住家被害 全壊33棟、半壊169棟



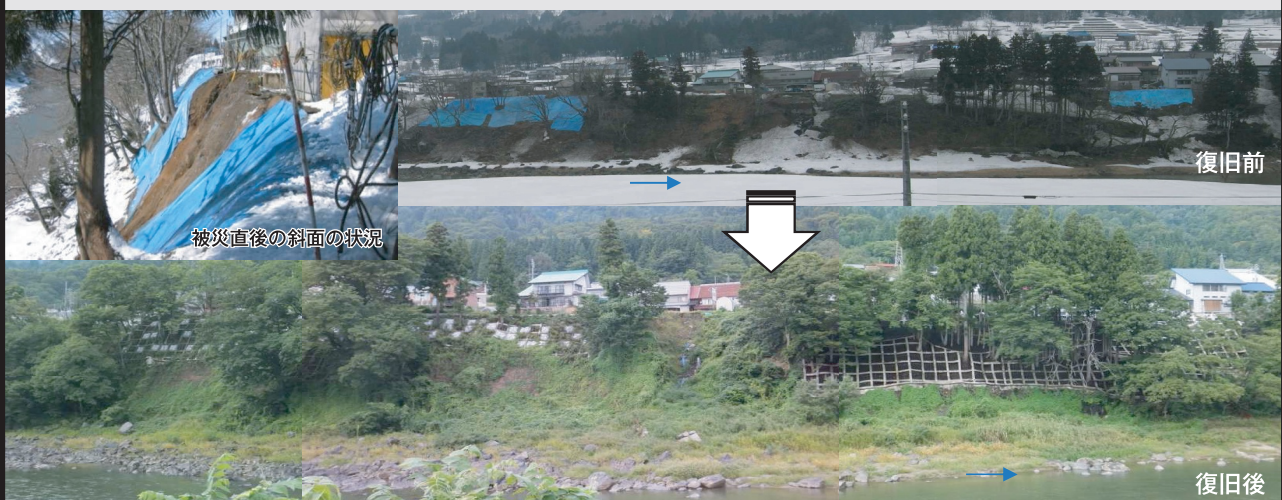
通常砂防事業 長野県 栄村 中条川 中条

全体事業費 C = 2億4千万円 砂防堰堤工(透過型) H = 11.5m、L = 62m 床固工 H = 5 m、L = 43m



急傾斜地崩壊対策事業 長野県 栄村 平滝地区

全体事業費 C = 3億円 現場打吹付法枠工 L = 300m A = 7,500m² アンカー工 N = 76本



広報(その2) 中部支部ホームページへようこそ

中部支部のホームページにアクセスしてね!

<http://jisuberi-chubu.org/>

「会員が参加できる」ホームページづくりをテーマに内容をリニューアルしています。「こんなコンテンツを増やしてほしい!」などなど、皆様のご意見やアイデアをお待ちしております。

(公社) 地すべり学会中部支部へようこそ!

中部支部からのお知らせ ↓

- 「中部支部代議員選挙の実施について」を掲載しました。(2013.0201)

中部支部の活動スケジュール(2012年)

★平成24年度 総会
日時: 5月7日(月)
15:00~17:00
※詳細は[こちら](#)
場所: サンバルテ山王

★平成24年度 現地検討会
日時: 11月15日(木)
12:00~19:30
※詳しいご案内は[こちら](#)
※参加申し込み用紙は[こちら](#)
場所:
●豊田市「堂ノ本地区」特定利用斜面施設見学
●瀬戸市「萩御殿」はげ山対策の石堰堤見学

TOP 中部支部とは **知ろう** **学ぼう** **キッズ** **美術館** **リンク** **お問い合わせ** **会員申し込み**

The Landslide Society Chubu Branch

ちゅうぶの地すべり

- ・地附山地すべり
- ・茶臼山地すべり
- ・清水山地すべり
- ・倉並地すべり
- ・中牧地すべり
- ・味大豆地すべり
- ・東横山地すべり
- ・半済地すべり
- ・大畑地すべり
- ・領内地区地すべり

知りたい地すべり名をクリックしてね!

スーベ・ランちゃん

<ちゅうぶの地すべり>について
掲載内容は、随時追加していきます。
支部長からのごあいさつ

Copyright(C) 2009 (公社)日本地すべり学会中部支部. All rights reserved.

★ コンテンツの紹介 ★

▲ トップページのイメージ

- ちゅうぶの地すべり** 中部支部の各県に発生した地すべりを紹介するページです。各県庁の中部支部担当者の方にご協力をいただき、掲載内容を作成しています。随時、地すべり地を追加していきます。
- 知ろう** これまでに発行された中部支部ニュースやシンポジウム等の資料、中部支部管内の各県で作成した冊子やパンフレット、その他会員の方が執筆された文献・資料をご提供いただき、閲覧できるページです。
- 学ぼう** 会員のもつ土砂災害に関連した知識を地域社会の方々や教育現場へ普及し、地域の防災力向上に寄与できればと思います。防災啓発や防災教育のためのボランティア・ティーチャー派遣の取り組みを始めます。ご賛同いただける会員諸氏の登録をホームページにて募集しています!
- 美術館** 中部地域の雄大な山々をフィールドにしている会員が多い中部支部。隠れた才能を持った人が多くいます。そんな会員の方が創作した作品を紹介するページです。絵画・写真・エッセイ等ジャンルは問いません。作品の電子データをホームページにて募集しています!

お問い合わせは、企画担当幹事のメールアドレスまで → info@assist-zero.biz (担当: 島田)

裏表紙写真:「乗鞍岳、野麦峠上空より富士山、諏訪湖、伊那谷を望む、手前は奈川度ダム貯水池~寄合度」(写真提供: 飯沼達夫)

特別協賛法人 (4 口)

1 口

長野県治水砂防協会

(社) 斜面防災対策技術協会中部長野県支部

(社) 斜面防災対策技術協会北陸石川県支部

(社) 斜面防災対策技術協会北陸富山県支部 (敬称略)

協賛法人 (40 口)

1 口

(有) アルプス調査所

(株) エスイー

応用地質 (株) 長野支店

(株) オサシ・テクノス

小谷建設 (株)

office アシスト・ゼロ

川崎地質 (株) 中部支店

関東地質 (株) 長野営業所

(株) 建設コンサルタントセンター

国土防災技術 (株) 静岡支店

国土防災技術 (株) 長野支店

国土防災技術 (株) 名古屋支店

五大開発 (株)

(株) サクセン

(株) ジーベック

(有) ソック

総合地質コンサルタント (株)

(株) 東京電機

(株) 中部測地研究所

中部地下開発 (株)

(株) 主木管理総合試験所

長野県地質ボーリング協会

日特建設 (株) 長野支店

日特建設 (株) 名古屋支店

日本エルダルト (株)

日本工営 (株) 長野事務所

日本工営 (株) 名古屋支店

日本総合建設 (株)

日本物理探鑛 (株) 長野事務所

(株) 富士和

フロテックアンカー技術研究会

(株) 北信ボーリング

北陽建設 (株)

明治コンサルタント (株) 静岡支店

明治コンサルタント (株) 長野支店

(株) みすず総合コンサルタント

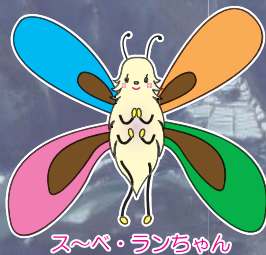
(株) 理学

(株) ランドテクト

鷺澤建設 (株)

(株) 千代田コンサルタント

(敬称略)



ス〜パ・ランちゃん

(地すべり学会中部支部キャラクター)

地すべり学会中部支部ニュース

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1 信州大学工学部社会開発工学科内

電話・FAX 026-284-0833 <http://jisuberi-chubu.org/>

(企画・編集 児玉 浩、梅崎 建夫、飯沼 達夫)